



スポーツのチカラで 対馬を元気に

峰総合運動公園陸上競技場に響く声。

この日、普段は競技者だけが走るトラックには、大勢の子どもたちが選手と並走しながら応援する姿がありました。

競技する側だけでなく、応援する側も一緒になって参加することで一体感が生まれる。その一体感をこの島を盛り上げる力にしたいという取り組みがスタートしています。



ジャベリックボール投に挑戦！



300mトラックで追いかけてこ



競技で使うマットを体験

走らなくても楽しい陸上競技

9月9日、陸上競技場では「陸上競技場で遊ぼう!」と題されたイベントが行われ、通常の陸上大会では聞くことのない、賑やかな音楽と子どもたちの声援、大人たちの笑い声が響いていました。このイベントでは、競い合う陸上ではなく、体を動かす楽しさや陸上を見る楽しさなどを参加者に味わってもらい、陸上競技のイメージを楽しいものに変えようと様々な工夫が凝らされていました。

イベントには、大会を控えた高校生も参加し、本番さながらの走りやジャンプを披露。普段見ることのない高校生の走りに、会場からは大きな声援だけでなく、高校生に声をかけながら一緒にゴールするなど、大いに盛り上がりました。

普段の大会では、それぞれ離れた場所で、競技者は自らの記録に向かい合い、観客はその姿を応援しますが、同じフィールドで選手たちの走る姿や息遣いを感じながら応援すること、その応援を感じながら走ることで、関わる人全員でゴールに向かう一体感が生まれる。そのことの大切さを多くの人が発見したイベントでもありました。



初めて触る器具に興味津々

イベントに参加して



たくと
日高 琢仁 くん
(鶏鳴小6年)

競技場は、大会で来ることしかなかったので緊張するイメージが強かったけど、遊ぶことで楽しい気持ちになり、次の大会にも楽しい気持ちで臨めそうです。



応援に思わず笑顔がこぼれる



あいり
小宮 翠 さん
(豊玉小5年)

競技場で初めて高校生と一緒に走ることができて、とても貴重な経験になりました!



ちか
米田 智咲 さん
(豊玉小6年)

ジャベリックボール投を初めて体験しました。初めて投げたら意外と遠くに飛んでびっくりしました!



子どもたちの応援を背にラストスパート

仕掛け人は、対馬に移住した陸上コーチ

今回のイベントを企画したのは、4月に対馬に移住した林田章紀さん。

長崎県出身で小学生の頃、陸上競技と出会った林田さんは、高校で本格的に競技人生をスタートさせ、順天堂大学へ進学後は十種競技の選手として活躍しました。大学院卒業後には、出身校でコーチとして活動をはじめ、2017年からは、プロのコーチとして選手の育成や指導を行うようになりました。今年からは、市の対馬3高校魅力化推進事業などの取り組みに関わることを機に対馬に移住しました。



司会としてイベントを盛り上げる林田さん

スポーツの持つ一体感が、



林田章紀さんにお話を伺いました

競技者からコーチへ。陸上競技に感じた課題

小学校から陸上競技に関わり、大学進学後は十種競技（走る・飛ぶ・投げるなど十種類の陸上種目の成績を得点化して合計得点で競う競技）を行ってきました。競技者として第一線を離れた後は、コーチとして日本代表や大学、社会人チームで指導をして、選手を送り出してきました。そのような中で感じていたのが、陸上競技があまり人気がないということでした。

陸上競技は、オリンピックやマラソン、駅伝など、注目を集める大会や種目もありますが、そのほかは注目度が低く、大会の観客席は空席が目立ちます。コーチ業とともに、私のライフワークとして、どうしたら陸上競技が盛り上がるのかを考えてきました。

みんなで盛り上がる大切さ

ワールドカップなどでは、国中が盛り上がり、大会後も選手として、観客として、競技を支える側として関わる人がたくさん生まれています。その結果、その競技自体も盛り上がり、色々な良い効果が生まれています。陸上競技には、その視点が足りなかったんだと考えています。競技に参加する人だけが盛り上がりつつも次につながらないと。日ごろから、選手・観客・競技を支える人みんなが陸上競技を盛り上げる雰囲気づくりを行って、陸上競技が行われている競技場を満員の観客で埋め尽くしたいという夢を持っています。その実践の場として、対馬はとても魅力的な場所だと思っています。

地域の元気につなげたい

私が、陸上競技を通して目指していることは、地域を元気にすることにもつながってくると思っています。対馬を元気にするためには、みんなで盛り上がるのができる一体感が重要です。そのためにはまず「応援する文化」を作りたいと思っています。競技者として走っていて「もう限界だ、やめたい」と思う時、周囲の応援はとても力になります。その時、応援する人は、自分も走っている人に寄り添い、同じような気持ちになって応援することが大切です。陸上競技を通じて、そんな応援ができる人たちを島中に作っていきたくて考えています。そして、人々が互いに応援できる文化を作り上げることで、地域が元気になれると思っています。

対馬の子どもたちの素質は素晴らしく、これから指導することで大きく伸びる可能性を秘めています。目標としては対馬で学ぶ高校生が「都大路」を走ることです。それと合わせて、陸上に関わりのある高校生を100人は作りたいと思います。高校生だけでなく、対馬の人たちにたくさん関わっていただき、島全体を覆うような熱気を育てていきたいです。



はやしだ あきのり
林田 章紀

諫早市出身

元陸上十種競技選手

2010年 順天堂大学スポーツ健康科学部 卒業

2012年 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 修了

2013年 順天堂大学陸上競技部コーチ

2016年 リオ五輪 400Mハードル パーソナルコーチ

2017年 プロ陸上競技コーチとして活動開始

2020年 コーチングの会社を設立、代表に就任

2023年 対馬市に移住

これまでに多数の陸上選手を育成、陸上競技のみならずスポーツや会社で指導やサポートを行っている。



活動はこちらから

対馬を盛り上げるきっかけに!

林田さんは現在、対馬で暮らしながら、対馬高校陸上部や小中学校への出前授業などで子どもたちへの指導を行っています。指導では、競技力の向上はもちろん、競技者としてだけでなくスポーツの楽しみ方を伝えています。



対馬高校陸上部指導



小学校出前授業



原田 隼杜 主将 (対馬高校陸上部)

林田さんには、技術的な指導だけでなく、これまでできなかった、チームの良い雰囲気づくりまで指導いただいています。練習の質を高めるために雰囲気づくりを行うことは、経験がなければ気付くこともありません。結果を残すことでその指導にお応えしたいと思っています。

対馬市では、高校に進学する中学生のうち、約3割の生徒が、市外の高校に進学しています。特にスポーツで好成績を残している生徒が、より良い環境を求めて市外の強豪校へ進学している状況です。そこで市では、学校の魅力を高めようと、今年度からプロスポーツクラブや民間企業などとの連携によるプロジェクトを立ち上げ、外部指導者による指導や遠征費の助成などを行っています。また、社会体育の活性化を図り、対馬で暮らし続けることができるようサポートをしていきます。

スポーツをきっかけに、地域の人たちが互いの活動を応援しあうことができれば、対馬はもっと輝く島になります。

皆様のご支援をよろしくお願いいたします。